

校内読書会の報告

『まだ、まにあうのなら』

～私の書いたいちばん長い手紙～ 』 甘蔗 珠恵子 著

〈日時〉

6月17日(金) 16時～17時50分

(地湧社)



平成二十三年 六月二十八日発行
 平成二十三年 第九号
 山口県立青嶺高等学校
 図書委員会 6月号

今回は、1年生 2人、
 2年生 5人、3年生 2人、
 先生 4人の計 13人の
 参加でした。
 まず、自己紹介をして
 みんなとうちとけた後、
 一読後の感想を
 述べました。



内容のおさらい

今、話題になっている原発のお話です。
 チェルノブイリ原発事故の後、原発の恐ろしいことに
 主婦の作者が知人に向けて書いた手紙です。
 それが本となり、大変、有名になった本です。
 読書会は終わったけれど、ぜひ読んでみて下さい。
 クラス文庫に1冊おつあります。 すぐに読めます!

Q 印象に

残った議論場面

全員がいろいろな視点
 からとらえていて、みんなと
 違うところを指摘して
 いました。 それほど
 たくさんの思いが込められて
 いる本だと思いました。

Q 福島原発事故(3.11)の後を

生きる私たちが、今できることは何だと
 思いますか?

- 正しいことも知ること
- 知ったら伝えていくこと。
- だまされないために、
勉強しなくてはならない。



原発に「賛成」「反対」わがが
 という様々な意見が出ました。
 皆自分のこととして考えて、しっかり
 意見を述べてくれて、感動しま
 した。小説ではない
 本の読書会も
 よかったなあ。

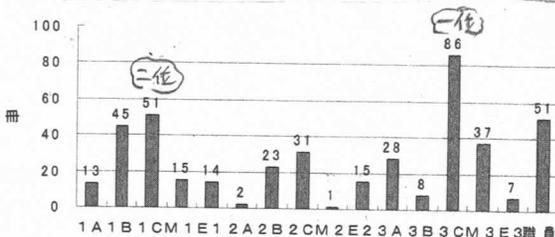
読書会に参加しての感想

- 1人の力は決して、小さくないことが
よく分かった。
- 皆がきちんと自分の意見を言っていたので
すごいと思った。

司会者N君の感想

あらゆる視点からの意見が聞けて
 いい会になった。
 人数は、もう少し99いと
 もっといい会になると思った。

クラス別貸出冊数(2011年度) ~6/27
 合計 427冊



きたものです。24年前に書かれた本の方が
 大切なことを教えてくれる本だと思ひます。
 「すべてのことから、いのちのちからを見よう
 ではありませんか。」(本文から)
 大嶺高の読書会から通算して189回目でした。
 次は190回目、11月にします! (N.M)

